

学校法人横浜清風学園 創立100周年を寿ぐ

建学の精神「仏教の理想とする人間完成」に沿って新たなスタートへ

横浜清風高等学校(植野法稔校長)を擁する学校法人横浜清風学園(藤井義章理事長)では、前身である「横浜家政女学校」が大正12年に創立されて以来、今年で100周年を迎えたことから「横浜清風学園創立100周年記念祝賀会」を、11月7日、横浜市西区の横浜ロイヤルパークホテル「鳳翔の間」において宗園及び学校関係者ら約370名を招いて盛大に挙行し、その歴史を振り返ると共に、今後益々の隆昌を祈念した。

同校吹奏楽部による楽曲演奏に続き、女子生徒による「散華の舞」が披露され、華やかな雰囲気の中で開式。真田有快創立100周年実行委員長が「本日は長谷部真道総本山金剛峯寺座主現下はじめ今川泰伸同寺執行長のご臨席を賜り、また各宗派、ご住職方、神奈川県教育委員会、学校関係の方々多数の出席を頂き、今日の日を迎えられた事を大変嬉しく思う」と開式の辞を述べ、藤井義章横浜清風学園理事長が「学園創立100周年を迎えたが、100年間の歴史は決して順風満帆ではなかった。100年前と言えば1923年(大正12年)で、関東大震災が起こった年であり、横浜市の中心部

『仏教の理想とする人間完成』は設立当初から変わっていない。中国の名言に『功の成るは成る日に成るに非ず、蓋し必ず由って起る所あり』という言葉がある。成功とは成功したその日に突然訪れるものではなく、理由、過程があつてからこそであり、普段の積み重ねによるものという意味である。加えて仏教では『物の興廢は必ず人に由る。人の昇沈は定めて道にあり』と説かれている。学校が栄えるか衰退するかは、そこに携わっている人々の信念や、信仰に基づく精進努力、思いやり、優しきがあるか否か、人としての道を歩んでいるか否かで決まるのではないか。一つの分野に捉われる事なく、様々な事柄を学ぶ事によって教養を高め、常に正しい考え方を保つ事によって人格が高められ、将来の人生においての正しい判断力を養う事が建学の精神に沿うものである。少子化による生徒数減少の問題や学園を取り巻く環境は甚

はほぼ壊滅状態、本校はその年の4月に南区大岡にて開校被災したものの建物の倒壊や火災を免れ、真言宗寺院の植家が私財を投じて数十名の生徒でスタートを切った。その後、真言宗寺院任職方が経営を担い現在に至っている。震災後は太平洋戦争に見舞われ戦前、戦中、戦後は学園にあって苦難の連続であつたと伝えられている。今があるのは、その時々の龍象諸賢、教職員保護者方々のご教導、ご支援ご協力の賜物であると感謝申し上げる。学校名も横浜家政女学校、明倫高等学校、明倫学園明倫中学校・明倫高等学校から現在の横浜清風学園横浜清風高等学校と変更されてきたが、建学の精神である

だ敵しいが、100周年を機に立ち止って過去を振り返り、建学の精神を再確認して、次の世紀に向かって出発する良い機会ではなかるうか」と歓迎の言葉を述べた。

続いて、長谷部真道総本山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長が「弘法大師御誕生1250年の記念すべき年に創立100周年を迎えられた事は、学園に携わって来られた方々にとつて大きな慶びであると拝察する。100年前の関東大震災、その後の太平洋戦争、そうした様々な苦難を乗り越え今日を迎えている。現在も世界を見渡すとロシア、中近東で紛争が勃発し世界中が大変な不安に陥られている。我が日本を取り巻く環境は周辺諸国の状況を見ても、決して安全とはいえない。そんな中で次の人材育成を担っておられる藤井理事長を始め教職員の方々のご苦労はいかばかりかと拝察するが、生徒の皆さんは未来に向かって自身自身の個性を早く見つけて次

学園年表(主な出来事)

大正12年(1923)

横浜家政女学校が創立

昭和2年(1927)

明倫高等学校に改称、認可

昭和4年(1929)

横浜市内真言宗寺院63ヶ寺の共同経営となり本山高野山の所屬として承認、仏教的信念を基礎として穩健なる婦徳の涵養を図る事を教育の方針と定める

昭和23年(1948)

明倫高等学校認可、財団法人明倫学園認可

昭和26年(1951)

財団法人明倫学園から学校法人明倫学園に

昭和42年(1967)

保土ヶ谷校舎(円形・本館落成祝賀会・両界曼荼羅開眼供養(※堀田真快管長の書による金銅製の種子曼荼羅)

平成13年(2001)

横浜清風高等学校に改称、コース再編・特進コース、社会福祉コース共学化

平成17年(2005)

総合進学コース設置、普通科全コース男女共学化

平成24年(2012)

新校舎完成、総合進学コースに選抜進学クラス開設

平成25年(2013)

創立90周年、学校法人名を横浜清風学園に改める

令和5年(2023)

創立100周年を迎える

の時代を生きて欲しい。また、建学の最初に十一面観世音菩薩をお迎えになったと伺っている。十一面の心を持って観音の体を成しており、その事を大切な心としてお祀りになっている。十一面観音の心を心と成して益々深く清く発展される事を祈念申し上げると、太田久美子神奈川県子どもみらい局子どもみらい部長

(黒岩祐治神奈川県知事代理)が「県内には私立高等学校が82校あるが、創立100年を超える学校は20数校であり、長きに亘り歴史と伝統を築いてこられた歴代の理事長、校長、教職員の皆様、地域の皆様の弛まぬ努力に敬意を表す。この100年間で教育を取り巻く環境は大きく変化したが、同校の建学の精神

横浜清風高等学校

建学の精神

仏教の理想とする人間完成

本校は、天長5年(828)年に弘法大師が開いた日本最初の私立学校「綜藝種智院」の教育理想「仏教の理想とする人間完成」を建学の精神に置いています。

『仏教の理想とする人間完成』を引き継ぎながら、時代の変化に対応した教育活動を展開されておられる。今後も横浜清風高等学校が社会に貢献する人材育成に尽力頂く事を期待している」と、花田忠雄神奈川県教育委員会教育長が「創立100年を迎えられたのも歴代理事長、校長をはじめ教職員の方々の熱意はもとより、支えてこられた関係団体、保護者、同窓会、地域の方々の温かいご支援の賜物と存ずる。仏教精神を基に智慧と慈悲の心を身に着けた誠実で明るく健康な人材を目指した教育により、これまで多彩な卒業生を社会に送り出してこられた。100年の歴史と伝統を礎に、横浜清風学園が建学の精神に基づき、今後

教育目標 智慧と慈悲を説く仏教精神により誠実で明るく健康な青少年の育成を目標とする(智慧〓人間として正しく生きていくための深い知識に基づく判断と行動。慈悲〓人間として自分だけでなく他の存在と個性を尊重し、人類はもとより、自然との共生を思いやる心で行動する事である)。

も真に生きる力を育む教育活動に取組まれる事を大いに期待している」と、工藤誠一神奈川県私立中学高等学校協会理事長が「横浜清風高等学校は、弘法大師空海が築かれた綜藝種智院の伝統を引き継ぎ、智慧と慈悲を建学の精神として教育を実践されてきた。こ

こ横浜清風学園では、次の時代を創造しようとする若人の熱い想いと眼差しで溢れている。これまで様々な試練があったと拝察するが、神奈川私学の雄としてその名声を益々高め、一世紀に及ぶ歴史と伝統の中で、数多くの卒業生が仏教主義の精神を受け継ぎ、慈愛の心を持って活躍されている。この事は学園に携わる方々の誇りであると拝察し、更にこの伝統が永遠に続く事と確信する」と祝辞を述べた。

後には1200年御遠忌の年を迎える。弘法大師が1200年間説いてこられた教えを横浜清風学園がこの世の中で実践して頂けるといふ事は、誠に有難い事である。今後益々横浜清風学園が隆昌される事を心から祈念申し上げます」と挨拶して乾杯の発声を

おらず、先生と生徒が一緒になつてグラウンド整備を行ったのも良い思い出である。こうして100周年を迎える喜びは、多くの先生方、卒業生達の弛まぬ努力の賜物と思う。卒業生数は2万5000人を超え、同窓会活動も大変微力ではあるが、学園の更なる発展を願いつつ努力している」と、松本純前衆議院議員が「仏教の精神を教育の柱として、生きるための知性と判断

力、行動力、そして他を思いやり、共生する事の大切さを学んだ多くの卒業生を輩出してこられ、これからもその精神は引き継がれ、更なる発展を遂げられる事と確信する。藤井理事長、植野校長をはじめ関係の方々には今後この仏教を礎とした教育理念をもつて若い人材の育成に励まされたい」と祝辞を述べた。

植野法稔校長が「本校では今年を『創立100周年イヤー』と位置付けて様々な取組みを生徒と共に進めてきた。生徒にとつて100年の年月を実感する事は難しかったと思うが、生徒から『文化祭に向けてアニバーサリーソングを作ろう』との提案が齎された。100周年を機に自分達の学校をもう一度見つめ直し、これからの横浜清風の未来に向けての思いを歌にしようとの事で、歌詞もメロディーも生徒から募集し、生徒の手によって歌を完成させたのでご披露申し上げます」と会場左右に設けられたスクリーンにてアニバーサリーソング「100周年 Anniversary Music」が披露され、眞田委員長の開式の辞をもって盛会裡にお開

横浜清風学園創立100周年



100周年を迎えた横浜清風高等学校の玄関（右上は校章と100周年のスローガン）

創立100周年祝賀会 於 横浜ロイヤルパークホテル 令和5年11月7日



出席者を出迎える学園関係者



370名が出席した祝賀会



吹奏楽部による楽曲演奏



開式に先立って披露された女子生徒らによる「散華の舞」



祝賀会場に飾られた祝花の数々

●フォト特集●



創立・大岡校舎時代



保土ヶ谷移転後の円形校舎



放課後の自習室の様子



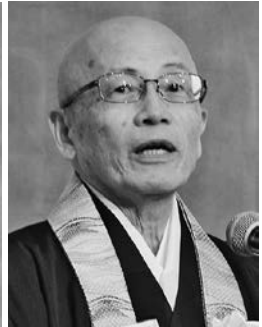
体育館での勤行



平成 17 年には男女共学となる（制服）



お言葉を述べる長谷部管長



藤井理事長



祝辞を述べる（右から）太田子どもみらい部長、花田神奈川県教育委員会教育長、工藤神奈川県私立中学高等学校協会理事長



眞田実行委員長



（右から）植野学校長、安田同窓会長、松本前衆議院議員



今川宗務総長発声による乾杯で創立 100 周年を祝う